

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を常に掲示し、職員がその理念を共有できるように配慮している。	開設時に事業所独自の理念を検討し、事務室やスタッフルームにも理念を掲示しているほか、職員会議でも理念を確認する場を設けるなどして、理念の実践ができるようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設1年となるが、現状は事業所として地域と交流する機会がほとんどないのが実情となっている。	これまで具体的な地域との交流の機会はありませんでした。	地域行事の参加や保育園や小学校との交流の機会も検討し、交流も持たれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設1年となるが、現状は事業所として地域と交流する機会がほとんどないのが実情となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の方々の意見を伺いながら、施設のサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、町内会長や民生委員、地域包括支援センター職員、市の担当者、ご家族代表などから出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めてサービスの質を向上するように努力しています。	運営推進会議が2カ月に1度定期的に行えるように検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日ごろより、長岡市の担当者とは連絡を取り合い、また、指導、書類提出などについては確実に対応を行なっている。	市の担当者や包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただきアドバイスを頂いているほか、介護相談員に定期的に来て頂くなど連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に当たる行為はないように取り組んでいる。	事業所として身体拘束をしない方針を徹底しており、玄関の施錠も夜間のみとしています。職員の言葉遣いについても気付いたときに指導するなどし、身体拘束をしないケアを実践しています。	職員に対しても身体拘束に関する研修の機会を設け、職員の理解度を上げられるように検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設では、虐待行為などを行なう状況がなく、職員とご利用者が良好な関係を保ち、ご利用者が気持ちよく日常生活を送ることができるように努めている。	職員の言葉遣いについても気付いたときに指導するなどし、虐待の防止に努めています。	職員に対しても虐待防止に関する研修の機会を設け、職員の理解度を上げられるように検討されることを期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者については、日常生活自立支援事業や成年後見制度を学んでいるが、職員については、まだ研修を行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約や改定時は、ご家族に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまで、特にそのような機会を設けていなかった。	ご家族とは居室担当者が面会時に気付いたことや要望は無いか確認しています。	よりご家族の率直な意見が吸い上げられるよう、玄関に意見箱を設置したり、定期的にご家族が集まる機会を設けられることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議を定期的に行き、また、随時職員の提案を聞いて、運営に反映させている。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、必要に応じて職員会議を開催し、職員同士で検討が行われ、改善に向けた取り組みが行われています。また、年に3回は管理者が職員との個人面談も実施し、職員の声をより把握できるように努めています。	職員会議を定期的に行き、職員との検討の場を増やし、サービスの改善に繋がれることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、職員の労働状況を把握し、給与水準の改訂を年度毎に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は職員の資格取得や研修の費用について、交通費や受講費用の一部を補助している。また、今後は内外での研修を受講できる体制を整備していきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長岡市内のグループホーム花の里かつぼ園様に協力得て、職員交流・研修をお願いしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	それぞれのご利用者について状況を把握し、ご本人が安心して過ごせるように職員が関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との関係づくりに努めてきたと考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の状況によっては他のサービス利用を含めた対応を勧めていく必要があると考えている。入居後に、勧めたことはこれまでになかった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者と共に生活する気持ちを大切に支援を行っている。それぞれの職員がご利用者と良い関係が築けていると考えられる。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係も考慮しながらの支援を行っている。	ホームでの活動の様子をまとめた事業所広報やご利用者毎に生活の状況をまとめたお手紙の送付を毎月行い、ご家族にご利用者の情報をお伝えしています。また、ご家族には面会時にご利用者の状況を伝えているほか、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで、特に意識して支援を行ってこなかった。	知人の方に面会に来ていただいたり、スーパーにご利用者と一緒に買い物にも出かけています。また、ご家族にも協力していただき、お墓参りに出かけたり、自宅に宿泊に出かけたりと今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、ご利用者同士の関係性を十分に把握しており、適切に交流できる雰囲気作りを行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで、お一人の方が持病による入院のため退所されたが、その後の状況についてご家族に連絡し、ご様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	そのように努めている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、ケアプランの検討に活かされています。	調査時点で、支援経過やサービス担当者会議に関する記録がありませんでしたので、実施されている内容を記録に残されることを期待します。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	そのように努めている。	契約時にご本人やご家族からの聞き取りにてご利用者の生活歴や性格、趣味などの情報を確認し、個別のフェイスシートが作成されています。	ご利用者の日々の生活で得られた情報についてもフェイスシートにて定期的に情報の更新を行い、職員間でも情報の共有をされることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	そのように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となって作成していたが、チームとしての意見は反映できていたとは言えない。	介護計画は計画作成担当者が短期6カ月、長期1年の期間で目標を設定し作成しています。調査時点ではモニタリングやサービス担当者会議に関する記録が確認できませんでした。	介護計画の評価を定期的に行うことや職員にも介護計画の内容が共有できるような機会も設けられることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録として、個別に記入を行なっている。職員間の情報共有に活かされており、介護計画に活かされていたと考える。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	十分な取り組みはできていないと考える。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員間で情報のやり取りなど、周辺地域資源の把握は常に行なっている。買い物先やドライブコースなど、ご利用者が楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、ご家族の協力や医療機関の往診などを活用している。必要に応じて受診支援を行っている。	ホームにも往診に来て頂いているほか、受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた情報提供表をご家族に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設では看護職の配置はないため、隣接のショートステイの看護職より職員が適切なアドバイスを受けられるように協力体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係づくりまでには至っていないが、ご利用者が入院された際は情報提供や退院時の対応などできるだけ協力体制を確保できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、今後ご本人やご家族、地域関係者と話し合いをしていきたいと考えている。	ホームとして看取りの支援は行わない方針ですが、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医と連携し支援していきたいと考えています。	ご家族にもホームの方針が分かるように、書面で重度化や終末期の対応の方針を作成されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員以外は応急手当や初期対応の訓練を行なっておらず、今後の課題としていきたい。	事業所でも緊急時のフローチャート及びご利用者毎の緊急時のフェイスシートを作成し、ご利用者の急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	事業所にて普通救命講習会や急変時の対応の研修を実施し、より適切な初期対応ができるようにされることを期待します。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接のショートステイと合同訓練を行なっているが、当施設単独での訓練をまだ行っておらず、今後地域を巻き込んだ内容での訓練を実施したいと考えている。	年に2回、併設のショートステイと合同で日中を想定した避難訓練を行なっていますが、夜間を想定した避難訓練の実施や非常用食品の確保はまだされていませんでした。	夜間を想定した避難訓練や地域の方への協力要請、非常用食品の確保も検討し、災害時に適切な対応ができるように検討されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	最低限の接遇は職員も心がけているが、気安さからの言葉の乱れや対応の粗さが無いとは言えない。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の際に周知されています。また、事業所広報への写真の掲載についても口頭で確認されています。	事業所広報への写真の掲載については、書面にて同意を得るように検討されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な範囲での対応だが、配慮を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲での対応だが、配慮を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の身だしなみは当然だが、それ以外で女性のご利用者には行事などでお化粧していただいたり、外出時の特別な身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特に力を注いでいる。	ご利用者にも野菜の皮むきや料理の下ごしらえ等も行ってもらっています。また、お寿司屋さんから出前を取ったり、ホームの畑でピーマンやなすの収穫もご利用者と一緒に行うなど、ご利用者に食事を楽しんで頂けるように取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に力を注いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時は、ご利用者一人ひとりの対応を行なっている。夜間は入れ歯洗浄剤を必ず使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを考慮し、極力自力排泄ができるように支援を行っている。	ご利用者全員の排便チェックも行ない、ご利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	たんぱく質や炭水化物は当然だが、野菜や海藻類、果物、乳製品などの摂取が十分に図れるように職員が献立に心を砕いている。また、レクや散歩、掃除の手伝いなどをされることで、運動の機会が持てるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	熱めの湯が好きな方や温めの湯が好きな方に配慮した入浴の順番としている。できるだけご希望に沿った入浴ができるように支援している。	基本的に1日おきの入浴支援としています。ご利用者の要望に合わせて同姓介助や、仲の良いご利用者同士で入浴して頂くなど、ご利用者に入浴を楽しんでいただけるよう取り組んでいます。	調査時点で入浴チェック表に記入漏れのある箇所もありましたので、ミスの無いように記録方法の検討を行われることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	そのように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	そのように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、食材の買出しは天候を見ながら、順番に出かけていただいている。また、ご家族の協力を得ながら、外出・外泊の機会を持っていただけるように支援している。	ご利用者と一緒に近くの100円ショップやスーパーに買物に出かけたり、神社や図書館に出かけたり、季節に合わせてお花見に出かけたりもしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の一部は金銭をお持ちで、食材の買出しの際、ご自身で買い物をされる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望のある方には、そのように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を大切にしており、居心地よく過ごしていただけるように努めている。	ホームの壁には外出や行事のスナップ写真が貼られており、日頃の生活の様子が分かりやすくなっています。また、お花を飾ったり、ご利用者の作品を掲示するなどし、ご利用者が居心地よく過ごせるようにされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	そのように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのように努めている。	居室には、テレビやタンス、時計など自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	そのように工夫している。		